

領域別取組	世羅町のめざす健康な姿	目標項目	健康せら21(第2次)			現状と課題	対策
			策定時 (平成28年度)	中間評価時 (令和3年度)	最終目標値 (令和9年度)		
① 栄養・食生活	●生活習慣病予防・重症化予防のための「食生活の改善」	朝食を必ず食べる人の割合の増加	91.3%	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■栄養バランスを意識している人は約7割。目標値は設定していないが、減少傾向のため対策が必要。 ■野菜の摂取は、約9割が意識して摂取できている。 ■減塩に取り組んでいる人の割合は、大幅に増加しており、目標達成。 ■家族と一緒に夕食をほとんど食べない・同居家族がいない人は約1.5割。 	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き「第3次世羅町食育推進計画」に基づき、食育を効果的に推進。幼少期からの望ましい食習慣の確立をめざす。 ■共食の重要性について啓発する取組みの充実。 ■一人暮らし世帯に向けた、孤食を防ぐ交流の場の情報提供、バランスの良い食事を促す取組みの継続実施。
		朝食を必ず食べる子どもの割合の増加	小3 95% 中2 82%	小3 93% 中2 81%	小3 95%以上 中2 90%		
		栄養バランスを考えた食事をしている人の増加	91.4%	75.8%	—		
		野菜を積極的に食べる人の増加	88.1%	88.8%	—		
		日ごろの食生活で、減塩に取り組んでいる人の増加	16.2%	63.2%	25%		
② 歯・口の健康	●歯周病で歯を失わないための「歯や歯周病予防をめざす取組みの推進」	3歳児におけるむし歯のない幼児の割合の増加	84.3%	84.9%	90%	<ul style="list-style-type: none"> ■3歳児におけるむし歯のない幼児の割合は策定時より微増だが目標値未到達。 ■12歳児における1人平均むし歯数は、目標達成。 ■成人において、7割弱の者が歯科検診を定期的に受けていない。また、約8割の者が指導等を受けていない。性年齢別で見ると、特に20歳～30歳代男性の未受診者が多く、8割以上がいずれも受けていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ■歯周病予防、オーラルフレイル予防の必要性について積極的に啓発。また、ハイジ検診事業について周知を強化し、定期歯科検診受診につなげる。 ■引き続き、保育所・幼稚園・小学校での歯科保健教育の充実を図る。
		12歳児における1人平均むし歯数の減少	0.57本	0.23本	0.4本		
		歯科検診を受診する人及び歯石除去やブラッシング指導を受ける人の増加	歯科検診受診率 27.6% 歯石除去・ブラッシング指導を受ける人 23.8%	歯科検診受診率 20.9% 歯石除去・ブラッシング指導を受ける人 17.3%	歯科検診受診率 35% 歯石除去・ブラッシング指導を受ける人 35%		
③ がん・生活習慣病予防(1)	●生活習慣病予防・がん予防のための「正しい健康知識の習得及び健康意識の向上」	治療中の病気がある場合、定期的を受診し、自分の薬について説明できる人の増加	定期受診97.3% 自分の薬の説明ができる90.1%	定期受診 98.1% 自分の薬の説明ができる 90.1%	—	<ul style="list-style-type: none"> ■自身の血液検査値について把握している人は策定時より増加しているが、目標未達成。特に20歳～30歳代が把握できていない。 ■生活習慣病予防の取組みについては、概ね横ばい。男女共に年代が上がるほど取り組んでいる人の割合が高い。 ■かかりつけ医を持つ人については、男性は増加しているが女性は減少。 ■若い世代の健康知識の習得・意識の向上が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ■現在実施している健康事業(健康講座・講演会・ケーブルテレビを活用した啓発・糖尿病性腎症重症化予防事業・特定健診受診率向上対策事業・特定保健指導等)を継続。健康に関心を向ける機会を増やし、行動変容を促す。 ■子供の頃からヘルスリテラシーを身に付けるための保健事業の継続。(家族ぐるみでの生活習慣病予防に繋げる。) ■各自治センターを拠点として、地域の健康課題に対応する保健事業を展開し、健康意識の向上を図る。
		自分の血圧値について知っている人の増加	90.6%	89.3%	—		
		自分の体重について知っている人の増加	96.2%	95.9%	—		
		自分の血液検査について知っている人の増加	78.8%	79.6%	85%		
		内臓脂肪の減少が、中性脂肪や血糖値、血圧値の減少に影響することについて知っている人の増加	男性92.2% 女性96.0%	男性 93.9% 女性 95.3%	—		
		生活習慣病の予防の取組みをしている人の増加	男性67.5% 女性72.7%	男性 66.3% 女性 73.3%	75%		
		かかりつけ医がある人の増加	男性70.4% 女性76.5%	男性 72.2% 女性 75.3%	85%		
		肥満傾向にある子どもの割合の減少	7.2%	5.2%	6%		
④ がん・生活習慣病予防(2)	●生活習慣病・がんの早期発見・早期治療のための「特定健診・がん検診及び精密検査の受診率向上」	過去1年間に健診を受けた人の増加	受診58.3% (2年に1回受診等12.7%)	受診54.4% (2年に1回受診等8.4%)	70%	<ul style="list-style-type: none"> ■新型コロナウイルス感染拡大も一因となり、特定健診・がん検診受診率共に減少傾向。(特定健診受診率県内9位) ■令和2年度と令和3年度の特定健診受診率を比較すると、-6.7%と県内市町で1番低下している。対策が必要。 ■がん検診精密検査受診率は、子宮頸がんについては目標達成。それ以外は受診率が低く、特に胃がんが低い。 ■健診未受診の理由としては、「すでに医療機関にかかっている」が最も多く、次いで「調子が悪くなればすぐ医療機関を受診できる」が多かった。その他の回答から、健診の意義、必要性の理解が低いことが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■新型コロナウイルス感染症の影響下においても、安心安全に健診を受けられる体制の強化、周知。 ■健診受診の必要性について、あらゆる方法で周知啓発し、健康意識向上を図る。 ■電話での個別勧奨や自治センターと連携した受診勧奨の際は、一人ひとりの受診状況を把握し、その方にあった健診制度を案内。 ■引き続き魅力ある健診を実施できるよう、受診しやすい環境づくりや無料コーナーの実施。 ■がん検診精密検査の未受診者への受診勧奨の確実な実施、強化。
		特定健診受診率の向上	45.6%	36.4%	60%以上		
		胃がん検診受診率の向上	17.9%	16.0%	40%		
		肺がん検診受診率の向上	12.5%	8.6%	40%		
		大腸がん検診受診率の向上	16.8%	11.4%	40%		
		子宮頸がん検診受診率の向上	21.1%	16.4%	50%		
		乳がん検診受診率の向上	26.3%	19.7%	50%		
		各がん検診精密検査受診率の向上	H26:67.0～88.4% H27:67.7～100%	R2:21.4～28.6% R3:50.0～92.3%	90%		
⑤ 運動・身体活動	●生活習慣病予防・介護予防のための「自分にあった運動の実践と継続」	定期的に運動している人の増加	43.8%	45.9%	65%	<ul style="list-style-type: none"> ■定期的な運動習慣のある人の割合は、策定時より増加。 ■運動内容は、ウォーキングが最多で約半数。また、運動継続に必要なこととして、約半数が「一緒に運動する人がいる」と回答。 ■筋トレ教室参加者数については、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により教室の中止等があり参加者の減少が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、健幸セミナーや広大連携事業などの健康増進事業、筋トレ教室などの介護予防教室を地域で開催し、楽しく、気軽に運動に参加できる機会を提供する。また、運動がもたらす健康効果について情報提供し、習慣に繋げる。 ■DVDを活用した「楽なの～ストレッチ」の普及と継続。コロナ禍においても、自宅でストレッチや筋力トレーニングが行えるよう情報提供。
		運動やスポーツを習慣的にしている子どもの割合の増加	小5男子 62.9% 女子 45.7%	小5男子 43.1% 女子 32.0%	小5男子 65% 女子 50%		
		ロコモティブシンドローム(運動器症候群)の予防【筋トレ教室参加者数の維持】	2,823人 (延べ人数)	2,054人 (延べ人数)	4,000人 (延べ人数)		

領域別取組	世羅町のめざす健康な姿	目標項目	健康せら21(第2次)			現状と課題	対策
			策定時 (平成28年度)	中間評価時 (令和3年度)	最終目標値 (令和9年度)		
⑥ 健康を支える社会環境	●健康を支え、守るための「地域のつながり」の強化	地域において、他の世代の人と交流する機会の増加	62.3%	48.6%	70%	<ul style="list-style-type: none"> ■比較的若い年代の人が地域や近所との交流が減っている。 ■介護認定を受けている人の割合はやや減少傾向にあるが、今後も高齢化率の上昇が見込まれるため、介護予防に取り組む必要がある。 ■認知症サポーター養成講座を地域の組織(警察など)を対象に行い、認知症の正しい知識の普及に努めた。 ■脳ひらめき教室は、策定時より教室への参加者は増加傾向にある。積極的な教室の周知等を行い認知症予防に努めた。 ■閉じこもり予防教室や通いの場合は新型コロナウイルス感染症の影響により活動自粛が行われたため、参加者数の減少や活動意欲の低下などが見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域のイベントやサロン等、地域交流が行える場への参加を促進。 ■ボランティア活動支援事業を充実し、地域の繋がりが強化を図る。 ■介護予防事業の充実に努めると共に、啓発と支援を継続的に行う。また、リハビリ専門職などの積極的な関与を行いながら、介護予防に関する知識の普及啓発を行う。 ■認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる地域づくりを推進するため、継続して正しい知識の啓発と支援を行う。
		近所の人と話をする機会(よくしている・まあまあしている)の増加	64.9%	54.9%	70%		
		ちょっとした手伝いを気軽に頼める人(何人もいる・少しはいる)の増加	64.3%	59.3%	70%		
		ボランティア活動に参加している人の増加	男性29.4% 女性14.8%	男性 24.8% 女性 15.6%	35%		
		介護保険サービス利用者数の減少	22.6%	22.0%	減少		
		認知症高齢者の増加に伴う地域支援の充実【認知症サポーター数の増加】	1,085人 (実人数)	1,417名 (実人数)	1,700人 (実人数)		
		MCI(軽度認知機能障害)対策【脳ひらめき教室参加者数の維持】	163人 (延べ人数)	205名 (延べ人数)	600人 (延べ人数)		
		虚弱高齢者対策【閉じこもり予防教室参加者数の増加】	3,517人 (延べ人数)	1,212名 (延べ人数)	4,000人 (延べ人数)		
	高齢者の社会参加の促進【居場所づくり(百歳体操)事業参加者数の増加】	286人 (実人数)	649名 (実人数)	660人 (実人数)			
	●中間評価における追加項目	「お互いさま」という言葉のイメージの周知と信頼関係が構築できた人の増加	-	81.0%	80%	<ul style="list-style-type: none"> ■多くの人にとって「お互いさま」と思える関係性の人が存在する。 ■新型コロナウイルス感染拡大の影響による人との交流機会の減少や繋がりの希薄化により、孤立した人がいる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■信頼関係の構築を図るため「お互いさま」のイメージを周知する。 ■近所に「お互いさま」と思える人の割合や交流機会が増加するよう、地域の繋がりが強化を図る。 ■スマートフォン等の電子機器の使用方法に関する教室を開催し、電子機器の活用促進を図る。(電子機器の活用による交流と対面交流の使い分けができる。)
「お互いさま」と思える人の増加		-	70.1%	80%			
「お互いさま」と思える人の増加		-	71.2%	80%			
コロナ禍での対面での交流機会が減った人の減少		-	対面交流減少した人63.8%	対面交流が減ったと回答する人の割合が減少			
コロナ禍での電子機器(電話・インターネット・携帯電話利用)での交流する機会の増加		-	17.2%	電子機器での交流機会が増加			
⑦ 喫煙・飲酒	●がん対策・生活習慣病・COPD予防のための「禁煙の推進及び受動喫煙の防止」	喫煙する人の減少	男性24.2% 女性3.5% (禁煙したい49.5%)	男性 24.3% 女性 8.0% (禁煙したい27.7%)	男性20% 女性2%	<ul style="list-style-type: none"> ■男性の喫煙率は横ばい、女性の喫煙率は増加。禁煙したい人の割合は約3割と策定時より低下。 ■世羅町における死因第1位の「がん」について、肺がんが最多。(男性多数)(令和2年人口動態統計年報より) ■後期高齢者における医療費について、「呼吸器」が上位にある。また、ピーク時の医療費を同規模自治体と比較すると、世羅町は同規模自治体の2倍となっている。 ■「敷地内全面禁煙」、「施設内全面禁煙」については、令和2年改正の健康増進法により分煙が義務化されたため、県調査終了で比較評価困難だが、全ての施設で敷地内全面禁煙となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■喫煙の健康影響・禁煙の効果について知識の普及啓発。 ■肺がん検診の啓発。 ■中学校での生活習慣病・がんについての健康教育継続。
		公共施設での敷地内全面禁煙の実施率の向上(施設を含む。)	14施設(18.9%)	-	22施設		
		公共施設での施設内全面禁煙の実施率の向上(スポーツ広場・テニスコート等含む。)	60施設(81.1%)	100.0%	-		
	●肝障害・精神疾患予防のための「適正飲酒の推進」	毎日飲酒している人の割合の減少	休肝日なし38.8%	休肝日なし40.3%	休肝日なし30%	<ul style="list-style-type: none"> ■休肝日の必要性は理解しているが、実行が伴わない人が多い。 ■特に40歳～60歳代男性の飲酒率が高く、休肝日を設けていない人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ■特定保健指導対象者を中心に、休肝日の必要性や飲酒量の調整方法に関する情報提供を行い、行動変容を促す。 ■妊娠中や授乳期の禁酒・禁煙指導。 ■未成年者の飲酒防止の取組み推進。
⑧ 休養・こころの健康	●精神疾患・自殺予防対策のための「こころの健康づくりの推進」	休養の時間がとれている人(充分とれている・まあまあとれている)の増加	73.2%	75.8%	85%	<ul style="list-style-type: none"> ■休養の時間がとれている人は増加。 ■悩みやストレスを抱える人が急増している。 ■ストレス解消法がない、気軽に相談できるところがない人が一定数おり、相談先の認知率も低い。 ■町内に精神科がなく、相談の場も乏しい。 ■自殺死亡率は、広島県に比べ高い傾向にあったが低下。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「心の健幸づくり講演会」等への参加促進。 ■ゲートキーパーの育成に努める。 ■こころの健康・ひきこもり等の相談窓口の周知を図る。
		悩みやストレスがある人の減少	15.2%	67.9%	10%以下		
		悩みやストレスに対処している人の増加	ストレス解消法あり63.7% 悩んだ時相談できる所あり57.4%	ストレス解消法あり65.5% 悩んだ時相談できる所あり55.5%	ストレス解消法あり70% 悩んだ時相談できる所あり65%		
		心の健幸づくり講演会への参加者数の増加	181人 (延べ人数)	30人 (延べ人数)	年間延べ200人以上		
		町職員対象の自殺対策研修受講者の増加	-	研修対象者のうち87.5%が受講 14人(対象1～3年目16人)	全職員のうち80%が受講		
		地域の相談機関について知っている人の増加	-	28.9%	80%		